

本時のねらい

- ・「過疎地域」・「過密地域」の現状と課題をもとに、「住み続けられる街づくり」をテーマにし、その実現に向けたプランを提案することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・まなびポケットの「ポジショニング」機能を活用することで、生徒一人ひとりの思考を可視化する。
- ・まなびポケットの「発表ノート」機能を活用し、あらかじめ授業者が用意したノートを使用することで、筋道を立てて思考することができる。
- ・まなびポケットの「発表ノート」機能のスライドショーを活用することで、プレゼンテーション活動における説得力のある考えを自分の言葉で伝える力を養う。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末
- ・まなびポケット「ポジショニング」機能
- ・まなびポケット「発表ノート」機能
- ・インターネットエクスプローラー(検索)

本時の展開(全9時間計画：9時間目)

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で、「ポジショニング」機能を使って表した「自分は将来こんな街に住みたい!」と「自分は将来こんな街には住みたくない…」の結果を提示する。 ○本時のめあて・流れを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびポケットの「ポジショニング」機能で確認する。 ・まなびポケットの「ポジショニング」機能で意思表示させる。
展開 (32分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「住みたくない街を住みたい街に変える」ためのプランを考える。 ＜パターン＞ A：人口が多くて自然豊かな街 B：人口が少なくて自然豊かな街 C：人口が多くて都会的な街 D：人口が少なくて都会的な街 ＜プランを立てる手立て＞ ①なぜ、「住みたくない」と思うのか？ ②どうすれば「住み続けたい!」と思えるのか？ ③「住み続けたい!」と思える具体的なプランは？ ○同じ「住みたくない」街を選んだ生徒が集まり、自分が考えたプランを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびポケットの「発表ノート」機能を使ってまとめさせる。 ・インターネットを使って類似例を調べることも可能であることを伝える。 ・まなびポケットの「発表ノート」機能でスライドショーをさせながら、発表させていく。
まとめ (13分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ベストプランを決め、全体で発表させる。 ○ふりかえりシートを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用タブレット端末でベストプランを提示し、全員の前で発表させる。

1人1台端末を活用した活動の様子

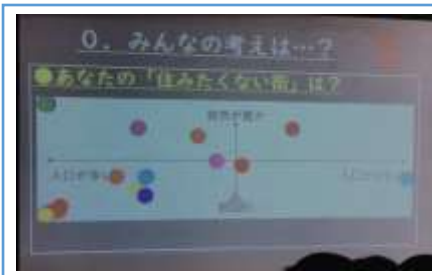


写真1：「ポジショニング機能」で考えを共有する場面

写真2：「発表ノート」機能に考えを記入する場面

写真3：班で発表しながら考えを共有する場面

児童生徒の反応や変容

- ・「ポジショニング機能」の活用は、生徒の意思表示を可視化し効果的にすることができるので、その後の取り組みに活かすことができた。
- ・「発表ノート」を活用することで、自分の考えを整理しながら発表資料の作成ができるので、生徒はスムーズに発表活動に取り組むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・本授業は単元のまとめとして実施した。「過疎地域」と「過密地域」の現状と課題を学習したうえで、SDGs「⑩住み続けられるまちづくりを」をテーマに、「住みたくない…」から「どうすれば住み続けたいか」を考えさせた。
- ・「ポジショニング」機能での意思表示は挙手しての発言などよりも容易に生徒それぞれの考えを共有することができる。
- ・「発表ノート」機能では、自分の考えをまとめる作業とプレゼンテーションするための資料作成が同時にできるので、生徒は取り組みの最初から発表することを意識することができる。